

## 平成24年度（2012年度）真珠養殖漁場の真珠母貝成長

幡野 真隆・石崎 大介

## 1. 目的

県内淡水真珠養殖漁場の状況を把握するために、水質および母貝の成長をモニタリングした。

## 2. 方法

2012年4月から2013年3月にかけて県内の主要な真珠漁場である西の湖、赤野井湾、堅田内湖において、概ね2ヶ月に1回、真珠母貝の殻長および殻重の測定を行った。測定に用いた貝は2010年より垂下している大型の母貝（以下大型貝、 $n=19, 20, 18$ ）ならびに、今年度より新たに垂下している小型の母貝（以下小型貝  $n=25, 25, 24$ ）の2系統を測定に供した。大型貝は縦型のネットに収容し、小型貝はバットの底に砂を敷いて、その中に収容した。水質はイケチョウガイの餌料環境を評価する指標として、粒径  $20\mu\text{m}$  以下の画分のクロロフィル a 量を分析した。

## 3. 結果

各漁場における母貝の成長を図1に示す。各漁場の大型貝は今年度の調査期間中、西の湖では1個体ネットから脱落し、堅田内湖では1個体死亡した。小型貝はすべて生存していた。母貝は4月から12月まで成長し、大型貝では過年度の成長も反映されたため、赤野井湾で最も大きく、西の湖、堅田内湖の順であった。小型貝は堅田内湖で最も大きく、西の湖、赤野井湾の順であった。成長量は大型貝では各漁場で差が見られなかったが、小型貝では赤野井湾で他の漁場よりも成長が悪かった ( $P<0.01$ 、多重比較の Sheffe' s F 検定) (図2)。小型貝は波浪により容器内の砂が流出し、不安定な環境に置かれたため、ストレスにより成長が停滞した可能性がある。クロロフィル a 量からは、概ね良好な環境にある

と考えられた (図3)。しかし、堅田内湖では9月にヒシの繁茂が観察されており、今後もヒシの繁茂が継続すれば、餌料環境の悪化が懸念され、今後の経過に注視する必要がある。

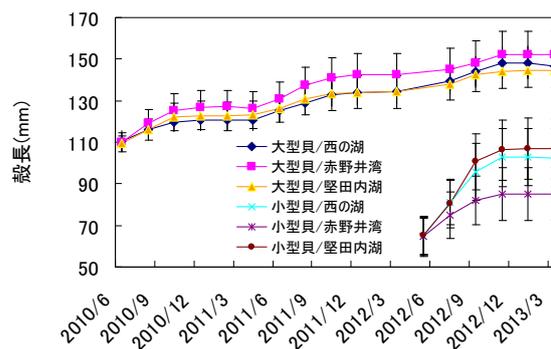


図1 試験貝の殻長測定結果

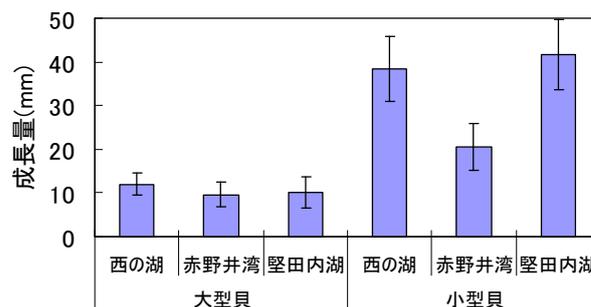
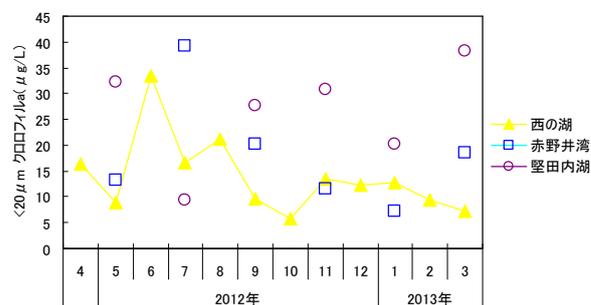


図2 試験貝の殻長成長量の比較

図3 粒径  $20\mu\text{m}$  以下の画分のクロロフィル a 量の推移